社会システム研究科
文化・言語専攻
2014M43002
孫　航

# 修士論文要旨

宗教は文化の一部として人類社会発展の歴史のなかで独特の様相を呈し、人類の伝統的な文化の重要的な要素となっている。また、人々の思想にまで影響し、生活習慣などの方面にも深く関与している。宗教はその信者たちの思想と生活だけでなく、社会全般の精神文化生活にも深い影響を及ぼしている。宗教は特定の思想的な信仰でありながら、人類社会にとって、普遍的な文化・現像の一つであり、豊かな文化的感受性を生んでいる。宗教が形成・発展していく各段階で、人間のさまざまな思想文化を吸収し続けてきた。政治、哲学、法律、文学、詩歌、建築、芸術、絵画、雕刻、音楽、道徳性などとお互いに影響しあい、受け入れあい、しだいに独自の宗教文化が形成され、豊かな世界文化に貢献した。

仏教は紀元前 5、6 世紀古インドに源を発するとされ、紀元前 3 世紀ごろには世界的な宗教を発展した。上古時代の原始社会制度は仏教の戒律制度の根源である。釈迦は上古時代の原始社会のような自由、平等、博愛といった理想を追い求める。古今東西を総合的に見るから仏教は多くの国と民族の生活の中に重要な精神支柱となり、重要な影響を及ぼした。しかし、国により、民族により仏教はそれぞれの特徴を表す。近代にはいってから、中国の仏教は在家信者の教学を重んじるようになっていった。中国仏教研究者は将来の仏教戒律学は在家信者の戒律学の研究と応用を重視したほうがいいと考えられている。

仏教においては戒、定、慧三学の中で戒学が基礎として存在している。戒律によって心を惑わす悪行為から離れ、禅定により心をコントロールし鎮め、智慧を定めることこの世の真理を見極めることで、心に平穏をもたらすこと（涅槃）を目指す。釈迦は戒律を非常に重視しており、戒律は信仰者にとって修行して解脱するための基礎とみなされている。インド仏教では小乗仏教のみならず大乗仏教でも持戒を修行の出発点・基礎として強調する。戒律は仏教徒にとって防非止悪の最高の道具である。仏教戒律の特徴は自律性と他律性的の統合であり、現実性と超越性の統合であり、強制性と寛容性の統合であり、原則性と機敏性の統合であり、人文主義と神秘主義の統合だと中国仏教研究者楊華祥は論じている。教学発展の歴史の中では、たびたび戒律学を疎かにする向きもある。歴史から見れば、戒律に厳格ではなかったため生じた問題がたくさんあった。中国の歴史では何回もの仏教を排斥する事件が起こったが、全て戒律を乱したことと関係ある。

６世紀中期、中国から渡った仏教は百済から日本に届いた。近代の日本仏教学の観念形態も仏教戒律学に緊密に連絡する。日本と中国は一衣帯水の隣国である。昔から文化、政治などをつながっている。特に仏教文化間の交流はもっとも緊密になる。古代より日本は中国から仏教を受容し、日本の政治制度、文化、建築、および日本人の生活習慣など重大な影響を及ぼした。７世紀以降の

遣隋使の時から、日本の僧侶が中国に派遣されている。また奈良時代にも中国僧が多く日本に渡来している。歴史上、政治により中国仏教は酷く破壊された。寺、仏像、経典など仏教に関するものがたくさん破壊された。１９世紀から仏教復興の声が消えなかった。そして日本仏教に関連部門のおかげで、失われた仏教経典なと、修復できた。２１世紀に入って、仏教の発展につれて両国の親善友好交流はきっとさらに高いレベルに達する。千年にわたる日中の仏教交流を、両者の関係が厳しかった草創期から文化大革命の影響による仏教交流の中断、日中国交正常化を経て今後の時代の展望しようと思っている。

この論文においては日中両国間の仏教発展、交流の歴史を踏まえて、日中両国の仏教戒律について筆者の視点により比較し、両国の戒律の特徴、相違点を見つけて文化の相違点を考究した。

序章の部分には戒律についての概説を検討したいと思う。ここでは仏教思想とインドの戒律の創建した経過、進展、戒律により起こった重大な事件とその解決、最後は戒律についての未来の展望などを検討したいと思う。

第一章には中国における戒律についての問題を検討したいと思う。ここでは中国はインドンから伝来した戒律に対して進展と改革などを中心に検討したいと考える。ここには具体人物の思想も挙がる。時代に変わって中国戒律思想からみた中国仏教文化の特徴と考える。

第二章には日本における戒律についての問題を検討したいと思う。ここでは日本朝鮮半島、中国から伝来した戒律に対して進展と改革などを中心に検討したいと考える。ここには具体人物の思想も挙がる。時代に変わって日本戒律思想からみた日本仏教文化の特徴と考える。

第三章は日本と中国における戒律の比較である。ここは全文では一番重要な部分である。ここでは両国仏教戒律ついての相違点と仏教文化の相違点とその影響と筆者の意見はすべてここの部分で提示したい。